

県政レポート

ほんまに
やらなからん!

VOL.16



ホームページ

Go!
Go!
白井
ゆきのり

令和5年11月定例会議において、以下の項目について質問をいたしました。

【医療的ケア児の支援を行う債務について】

Q: 医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律のポイントについて伺う。

A: < 健康医療福祉部長 >

医療的ケア児の日常生活や社会生活を社会全体で切れ目なく支援を行うために、医療的ケア児が在籍する保育所や学校等への支援や相談体制の整備、支援を行う人材の確保等が国や地方公共団体の責務として位置付けられたところでございます。

具体的な取組にあたりましては、行政機関や事業者などの関係者が一体となって取組を進めますとともに、医療的ケア児やその家族の地域生活を支える支援の体制や暮らしの環境を整えることが重要なポイントであると認識をしているところでございます。

Q: 災害時に避難所となるところが想定される学校体育館に空調設備が整備されていないことについて

A: < 知事 >

断熱等の設備が整っていない段階で空調設備を整えるということは、空調の効率を発揮できないということになりますので、これは大規模改修とセットでやっていかなければならないということでございますので、そういったことは、今後教育委員会ともよく議論検討していきたいと思っております。ただ、災害時においてもこういった学校で過ごす、例えば医療的ケアが必要な子どもたちの状況等にも十分対応した環境の在り方、また、必要な機器の在り方、こういったことも今後、教育委員会ともよく議論検討して参りたいと存じます。

Q: 調査結果や滋賀県の債務を踏まえての今後の対応について伺う。

A: < 健康医療福祉部長 >

今回の医療的ケア児支援法の施行を契機としまして、本年4月から滋賀県重症心身障害児者・医療的ケア児等支援センター、「こあゆ」を設置をしまして、重症心身障害児者や医療的ケア児、そしてその家族のワンストップ相談、さらには支援人材の育成、そして地域のネットワークづくりを行っているところでございます。

医療的ケア児支援法の基本理念の一つに「居住地域にかかわらず等しく適切な支援を受けられる施策」という項目が挙げられておりまして、関係機関ともしっかりと連携をしながら、医療的ケアの必要な人やその家族が地域で安心して暮らせる体制を構築してまいります。

Q: 議論を早く進めていただきたい。もう一度知事の思いを伺う。

A: < 知事 >

おっしゃった通り大切な命です。せっかく授かった命です。そして一年一年、ひと時ひと時懸命に生きる命、そしてその子らの学ぶ環境、そして育つ環境、そういったことについてしっかりと心を寄せ、必要な対応をとっていくということは重要だと思います。したがって県でもそういった通学支援の在り方なども行ってきまされども、法律なども制定され、また数も増え、年齢を重ねるにつれ症状が重くなるというような事情もございますので、そういったことに十分応えられるよう議論を重ねてまいりたいと存じます。

障害者の居住支援について

滋賀県における、障害福祉サービス事業所等の施設整備にかかる「国庫補助金」については、令和3年度は7件、国に申請して1件だけの採択、令和4年度も9件、国に申請してたった1件しか採択してもらえませんでした。

毎年20件くらいの相談があって、計画がしっかりとしているえりすぐりを申請してもなかなか採択されないというのが昨年の状況でした。

そこで今年度からは、「滋賀県手をつなぐ育成会」と協力して、特に要望の多い「重度障害者が利用できるグループホーム」に限ってですが、県独自の予算での整備事業に取り組んでもらうことが出来ました。

令和8年度まで4年間、毎年3件分、県独自で補助金を出しますから、確実に4年で12件の整備が一気に進みます。

一人ひとりの暮らしと生きがい、
地域をともに創っていく社会へ

(厚生労働省 HP より引用)

滋賀の公共交通 未来アイデア会議

10月28日、イオンシネマ草津で行われた「地域の公共交通」を今後どう維持するのかを考える「滋賀の公共交通未来アイデア会議」に参加。

映画館の大スクリーンを利用して、近未来の「公共交通の姿」を映しながら、未来の私たちの生活スタイルを伝えていきました。

滋賀県では、2040年代を見すえた公共交通のあり方を示す「滋賀地域交通ビジョン」の策定作業をしています。ビジョンに反映する意見・アイデアを聴取するため、県民との対話を実施しており、フォーラムはその一環として開催されました。

県民アンケートでは約95%が「公共交通が必要」とする一方で、車社会のため電車・バスを普段利用しないという人が多いという現実があります。

今、「交通税」についての議論が始まっています。県民の新たな税負担なしに「公共交通」を維持していく方を検討し、提案していきたいと思っております。



淡海医療センターの「院内ツアー・医療体験」に参加

社会医療法人誠光会 淡海医療センターでは、地域の方々との繋がりを深め、地域医療の大切さの理解や健康への関心を高めて頂くことを目的に「オータムフェスティバル2023」を開催されました。4年ぶりの開催ということもあって朝早くから、たくさんの参加者で盛り上がっていました。

最新の「医療機器やリハビリ機器」の見学や「腹腔鏡下手術」の疑似体験、「車椅子トライアル」など、病院ならではの工夫を凝らした内容でした。

屋外では「ホースセラピー」の体験コーナーもあり、子どもたちも乗馬の体験をしていました。動物と触れ合うことで心を癒す「アニマルセラピー」として、馬を使って行う「ホースセラピー(乗馬療法)」が今、注目されています。

大津市にある「クリエイティブブラッツ」では、馬とのふれあいや乗馬体験によって、障害を持つ方や高齢者のやすらぎ、運動機能向上を目指した取り組みを行っています。



ご挨拶

明けましておめでとうございます。皆様にはお健やかに新年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。また、旧年中は格別のご高配を賜り心よりお礼申し上げます。

さて、昨年の11月には、多くの皆様にご出席賜り、「県政報告会」を開催しました。

私からは、「計画道路・平野南笠線」の進捗や地域公共交通について、滋賀県の取り組みを報告。また、草津養護学校の分離新設やびわこ学園のことに触れながら、「福祉」に対する思いを述べさせて頂きました。

新型コロナウイルスの影響で、久しぶりの開催となった「県政報告会・秋のつどい」でしたが、出席いただいた皆様も和気あいあいとしたムードで懇親を深めて頂きました。

本年も地域の皆様の声を大切にしながら、精一杯県政の課題に取り組んでまいりますので、変わらぬご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

本年も皆様にとりまして素晴らしい年となりますようお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。 令和6年1月吉日



滋賀県議会議員 白井幸則

